

アラスカプロジェクトにおける大気光イメージャ (NICT-ASI) の総括及び今後の展開について

General overview and future plans of all-sky imagers developed in the NICT Alaska project

久保田 実 [1]; 石井 守 [2]; 村山 泰啓 [1]

Minoru Kubota[1]; Mamoru Ishii[2]; Yasuhiro Murayama[1]

[1] NICT; [2] 情報通信研究機構

[1] NICT; [2] NICT

<http://salmon.nict.go.jp/>

情報通信研究機構 (NICT) とアラスカ大学が共同で進めてきたアラスカプロジェクトの一環として、我々は3台の全天型大気光イメージャ (NICT-ASI) を開発した。この装置は国内で較正作業やテスト観測を行った後、2000年10月から2007年4月にかけて、アラスカ・ポーカーフラット実験場においてオーロラや大気光の定常観測を実施した。観測データは、NICTのデータシステム SALMON(<http://salmon.nict.go.jp/>) によって、研究者や一般ユーザーに公開された。これまでのNICT-ASIの観測からは、大気重力波の波状構造高度の推定手法を初めとする、幾つかの新たな、大気ダイナミックスの調査手法が開発された。また、装置の高感度で多波長が観測可能な特性を生かし、サブオーロラ帯における準共回転オーロラや、MSTIDなど、それまでの観測では見えていなかった現象を捉えるなど、幾つかの顕著な成果を挙げた。本発表では、このNICT-ASIのこれまでの成果について総括し、また、今後の展開について議論する。